３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森

不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.494-495

嵐山、最後の小屋を撤去

【定例活動報告】小原本陣の森

第１日曜日の活動より

　相変わらずの天候不順には悩まされる。先週解体した小屋の廃材の搬出作業を行うため自家用車を出せる人は車で集合したこともあり、４台の車が集合した。先週解体済のNOVAハウスの屋根を畑班の石井さん達が野地板と垂木を外してくれていたので、屋根の解体は思いのほか早くおわった。NOVAハウスの跡地に残った多くの丸太材や釘などの金属片の跡片付けが結構大変だったが、元に戻った自然の大地に魅了された。その流れで、乾燥小屋の跡地の間伐残材や金属片を取り除く作業を済ませて、経路整備まで行ったらとても景観がきれいになり参加者に満足感を感じることが出来た。今回で嵐山の撤収はほとんど完了したことになる。一部乾燥小屋の補修用に用意した野地板と垂木の一山を業者に

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

返還すれば１００％終了になる。
　昼過ぎ嵐山の撤収作業終了後、畑に行きジャガイモを掘り分けて持ち帰った。私個人は、明日から北海道を三日間回り木材の中古加工機械を物色してくる予定だ。地球温暖化防止から始まった森林環境税だがいよいよ森林環境税譲与税の配布が始まった。森林の整備や森林従事者に対する支援や木材の利活用を進める活動が本格的に開始する。プラスチックフリー問題が増す中、木材の利活用は喫急の課題。
　これら一連の森林問題を通して緑のダムなどNPOがどうすれば川上の問題を川下に住む住民一帯のものとして取り込んだ日常にできるかが試される時がきた。

小林　照夫（本会、理事）

第３日曜日の活動より

　今回は小原宿活性化推進会議メンバーと打ち合わせのもと、小原地区住民との連携作業の一環ということで、孫山のハイキングルートの整備・維持管理を行った。
　コースに張り出した雑草・雑木等を除去しつつ頂上を目指すつもりで作業を開始したものの、予想に反して、コース入り口の日当たりの良い場所を除いては、拍子抜けするほど雑草がすくないことが判明。当初方針を変更し、コース全体の状況を把握すべく、取り合えず頂上を目指すこととした。
　コース入り口付近の雑草処理は、刈払機を持ち込んだ推進会議の小林会長にお任せし、所どころコースに張り出した雑木の枝を払いながら頂上を目指したところ、頂上付近に複数の倒木が放置され、一部はコースを塞いでいるものもあったため、頂上で昼食をすませた後、倒木処理に着手。
　結果としては、小さな樹もふくめ８本程度を処理したものの、大径木の倒木（三か所4本）については活動メンバーの平均年齢、必要機材不足等から無理をせず、日を改めて取り組むことで作業を終了した。
　次回は必要な機材を準備し、若い人たちの力も借りて、やり残した作業を終わらせたい。

川田　晃（本会、代表代行）

【定例活動報告】知足の森

第１日曜日の活動より

　第１日曜日の活動は嵐山最後の片付け、ということで森林整備班に合流させてもらった。８月の体験学校の準備に底沢の整備をと計画していたが、あいにくの雨ということもあり、ちょうどよかった。私がこの活動を始めたのももちろん嵐山からで、望星の森を設定していただき、地球環境部としても活動をさせていただき、多くの方、団体からご支援をいただき、かなりちゃんとした森林整備活動ができるような装備を揃えさせていただき、それらが納まってきたモマハウス（呼称は色々あるようですが）がいよいよ解体された。スムーズに開かない扉、南京錠、外れかかったガラス戸、地面が見えていたが抜けることはな

かった床、１ヶ月ぶりに入ると、あちこちカビが生えていた備品の数々。そんなことを思い出しながら最後の屋根板のビスを外して、あっという間に更地になった。望星の森の活動は続くが、感慨深い作業となった。

宮村　連理（本会、副理事長）

第３日曜日の活動より

第３日曜日の活動は、やっとそれらしい暑さになり、いよいよ体験学校で使う底沢の整備となった。河川自体は国の管轄らしく、砂防ダムなどは相模原市の管轄にあるらしい。前回下見のお手伝いをいただいた学芸大の吉冨先生にご尽力いただき、担当部署とすぐにつながり、沢については作業しても問題ないことを確認できた。この日は地球環境部、学大小金井中（の生徒は地球環境部という意識はあまりないらしいが結局やっていることは一緒）、望星高校の生徒も集まりの大所帯に。最初に簡単な自己紹介をして、荷物を整理、軽トラに積んで、活動の趣旨を説明。早速、当日もお世話になる民泊の脇から沢に入る。入った直後は冷たい冷たいとキャーキャー騒ぐだけだったが、慣れてくると、沢を覆う雑木や倒木をどんどん処理していく。私はゴール地点に先に荷物兼軽トラを置き戻るとかなり先に進んでいる。下から下りてこいと粟田さんが言うのだが、どう見ても下りれないような崖。子どもたちもまだー？みたいな顔をしているので下りているのか落ちているのかわからないようなまま沢へ。連日の雨で沢の水量は思ったよりも多いが、作業はどんどん進み、ゴールの滝へ。ちょっと疲れてしまった生徒は手前から道へ戻ったが１０名以上が滝を登ってみることに。見事に登りきったところで集合写真。軽トラが置いてあるポイントまで道を戻った頃には皆ぐったりと。やはり沢の水は冷たく体力の消耗は大きかった。そのまま小原の郷で着替え、遅めの昼食として解散となった。当日が楽しみである。

宮村　連理（本会、副理事長）

私は先日、８月に活動を体験しにくる小学生たちのために沢の周辺を整備しました。これまで私は間伐や植生調査等の「自然のための森林整備」しかして来ませんでした。しかし今回小学生のために沢の周辺を整備するという「人のための森林整備」を初めてしました。前者はすぐに結果が出ない上に自然が相手なので漠然としている一方、後者は自分が同じ「人」に対するものなので、その違いというのも面白かったです。また、会った人とでも自然の中で一緒に作業をすることで、人見知りの私でも円滑に話すことが出来ました。８月に小学生の笑顔を見るのが楽しみです。（東京学芸大学附属小金井中学校３年男子）

今回、私は2回目の活動で、山ではなく川に入り木を切り、また違った経験をすることができました。
そこでは新鮮な空気と自然に囲まれたことで楽しく過ごすことができ、とくにだれかのためになにかをするのは気持ちの良いもので目的を持って行うことで終わった後の達成感は他では味わえないものだと感じました。また、活動を通して感じたこと学んだことをこれからの生活でも活かしていきたいと思います。（東京学芸大学附属小金井中学校３年女子）

今回初めて、川の整備をしました。今回は、いつもとは違う活動らしいのですが、とても楽しく行うことができました。ありがとうございます。

いつも何気なく見ている山や川は、見えていないところで、色々夏休みに人が頑張ってできたものだと言うことを実感しました。また、今回は、小学生の川遊びのために川を整備しました。出っぱっている木を切るのではなく、どういうところが小学生にとって危険となるのかを考えることができました。こういう、先のことを考えて行動することはこれからの生活にも、生かしていきたいです。

初めてでわからないところが多くご迷惑をお掛けしたかと思いますが、温かい目で見守ってくださり、ありがとうございました。

菊川　道成（東京学芸大学附属高等学校１年）

桜井尚武の森のコラム

「アカシデ(*Carpinus laxiflora*)とサワシバ(*C. cordata*)」

図1. 新葉が赤いアカシデ

20190620飯田橋

前回紹介しなかった、葉が小さく葉柄が赤みを帯びていることが多いアカシデは、芽吹きの頃の新葉が赤みを帯びていることも特徴です（図1）。神事に使われる幣（あるいは四手（紙垂））にも例えられる果穂は他のシデよりも小型です。小型の果穂の種子を包む果苞は前回紹介したイヌシデ同様開放的で種子がよく見えます（図2）。これに対してサワシバの果穂はクマシデ同様密に瓦状について種子を隠しています（図3）。このような違いがあるので果穂の形は種の判別の役に立ちます。

図2.アカシデの果穂

20190429南千住

他のシデ属の種の名前にはどれにもシデがついているのになぜサワシバだけがシバなのか、ネットで見ても色んな憶測が交錯するばかりで決めてとなるものはありませんでした。「四季の山野草」と題したネットのサイトで「シバ（柴）は薪になる雑木の小枝を意味し」とありました。小枝だけでなくまだ大きくなっていない稚幼樹全体も「おじいさんが山へ行って柴刈りをする」対象になっているのは昔話になっているくらい人々に知られていることですので、沢筋における焚き木（薪）資源の重要な一員であったのかも知れません。似た名前に「ヤマシバカエデ」というのがあります。沢柴に対して山柴でしょう。これも焚き木の柴として重要かつ普通に利用されていたものだと思います。ヤマシバカエデはサワシバ同様に沢筋に近い肥沃地に多く分布するカエデ科のチドリノキ（図4、*Acer carpinifolium*）の別名ですがサワシバより奥山に近い所に多いことからこのように呼ばれたのかなと考えました。

図3. サワシバの果穂

20070910水上

図4. チドリノキ

20110818水上

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

小原本陣の裏手を歩く道筋の整備２回目

今回も小原の本陣の裏手を歩く道筋のフィールドを整備しました。

柿の木の枝打ちを行なっているので、奥の針葉樹３本を伐倒する予定でしたが、2人での作業となったのとやはりフェンス沿いで狭く難易度が高いということもあり、３本の枝落としと下草刈りに留めることにしました。

梅雨明け前という気候でしたが蒸し暑く、体力が奪われる状況でしたが、2人で声を掛け合い作業を無事終えることができました。

8月にはとなりの畑に作物が植えられますが、だいぶ明るくなったので良い影響となることを期待します。

※写真上が作業前、下が作業後。

今後も当たらせてもらえるフィールドがあればきれいにして、歩いて行く人が気持ちよくなるようにしていきたいと思います。

来月は8月31日、9月1日に森林イベントである森林整備体験キャンプを実施します。

企画は3つ下記の通りです。

[1]【『高尾～小仏城山～相模湖』コース軽登山】

➡スタートの高尾頂上まではロープウェイ。そこから小仏城山を経由して相模湖まで下りてきます。高尾～相模湖までお昼休憩を挟みながらの山歩き。

[2]【間伐体験・丸太トーチ作成見学】

➡プロの林業家のもと立っている木を参加者みんなで伐採、伐った木で夜のBBQで使う丸太トーチを作成します。トーチの作成はチェンソーを使用しての危険作業になるので見学のみになります。

[3]【BBQ &キャンプ泊@道志村キャンプ場】

➡道志村キャンプ場に移動し、テントを張ってBBQ。お昼に作成した丸太トーチなどを使います。

8月の活動は萩山の下草刈りと伐倒木の選定を行う予定です。

滝澤　康至（ForesTo Class）

【若者の森づくり】Foresto Nova

今月はテストで活動ができませんでした、今後の活動としては8月にある17日18日の体験学校のお手伝いをさせて頂きます、その後は10月の26日27日に麻布大学文化祭があるのでそこで積み木を貸していただき子供を対象として木工体験や木工作品の販売などを行いノバの活動や緑のダムの活動を知ってもらおうという予定です。

そのためこれから文化祭までは通常の活動をしつつ木工体験の準備や販売する木工の制作などを行っていきたいです。

山口　拓海（Forest Nova）

【事務局から】

８月のイベント関係のご案内です。ForesTo Classの記事にもありましたキャンプ体験に加えて、第３土日には体験学校を実施します。今年は沢体験と流しそうめん、両日でもどちらでも参加でき、神奈川県の助成事業となります。神奈川県のやまなみ五胡naviや相模原市観光協会のウェブでも告知していただいています。チラシも地球環境部の高校生が作成、市内小学校に配布しました。

他にも本会理事の小林さんの事業の関係で秩父市内の森林測量（3Dスキャナーを使います）を８月９日１０日に、地球環境部恒例の林業研修合宿を８月１５日１６日に小菅村で行います。

さらに学芸大学explayground機構と連動する森を生かし、森と遊ぶGREEN TECH ENGINEER LAB、GTEラボの活動にも参加しています。これには地球環境部からも学芸大学小金井中卒業生からも高校生、大学生が参加しています。来月号からご報告できる予定です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内

発行人：NPO緑のダム北相模

支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

緑の募金

SEKISUI HOUSE
MATCHING PROGRAM

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。